

医師・看護師・介護職員の大幅増員を

日本医労連増員闘争ニュース

第 44 号

2009 年 10 月 20 日

日本医労連増員闘争本部

TEL: 03-3875-5871

FAX: 03-3875-6270

10 月 8 日、神奈川県医労連、県看護協会と懇談

看護に対するニーズは大きくなっている、賃金・労働条件改善で、離職防止を

県看護協会からは堀専務理事、天野常務理事、県医労連からは、植木副委員長、岡部女性・看護委員会事務局長、並木女性・看護委員、糸島女性・看護委員が参加しました。県医労連からは、夜勤実態調査や現場の状況、新たな署名を説明、第 7 次需給計画策定に関して今後、共同できる中身での協力を依頼しました。

堀専務理事は私見としながらも、「自分自身が S 4 3 年に就職し、2・8 闘争も県立病院で経験した。看護現場の実態はその頃と変わっていない状況がある」。世界の職能団体は、賃金・労働条件に目を向けている、日本看護協会もその部分が必要と強調されている。

看護師の離職率は、全体で 12.2% だが神奈川県は 15.7% と高い。新卒 1 年目は 8.7% に下がったが、再び 9.5% に戻っている。働き続けられる条件の一つとして、院内保育所の拡充と共に、都市部の通勤事情（満員電車・バスに乳幼児を連れてというわけにもいかず）、難しい状況はあるが、地域の保育所との連携も必要。民間では、医療職 3 表にこだわらずに新たな視点での給与体系を考え、実施しているところも出てきている。第 7 次需給見通しについては、平成 20 年末では就業看護職員県内 60,650 人であり、第 6 次需給見通しとの関連ではマイナス 9,000 人。全数調査の調査項目の中に県独自に追加したものもある。医労連との運動の共同については、一つ一つ検討したい。

また、天野常務理事も、「いかに退職させないかが大切、自分たちで労働条件を変えていかなければならない」と述べ、有意義な懇談になりました。

崩壊寸前の「介護」を再生させよう!! 岡山県医労連、福祉のつどいを開催



「福祉のつどい」で組合結成の報告をする天神会労組の高本委員長

岡山県医労連は 18 日、「福祉のつどい」を岡山市内で開催し、各加盟組合からヘルパーや介護福祉士、ケアマネら 65 名が参加しました。今回の「つどい」には、今年新たに結成された 2 つの福祉施設の労働組合からも参加してもらい、「よりよいケアの提供」のために頑張っている仲間達の話聞きながら、「労働組合の原点と介護施設での労働組合の役割」を考えました。

「つどい」はまず午前中、日本医労連の田中千恵子委員長から「新しい情勢を切り開いた力で介護の充実を」と題した記念講演をうけました。田中委員長は、これまでの「医師・看護師・看護職員をふやせ」のたたかひの歴史を紹介し、医労連をはじめとした国民のたたかひが自民・公明政権に「NO」の審判を

下し、政権交代を実現したこと、このことに確信をもって今後の運動をおすすめようと、訴えました。また、午前中は「介護労働者処遇改善交付金のたたかひ」「介護認定の見直しを撤回させるたたかひ」など 2 つの特別報告と新しく労働組合を結成した天神会労組から組合結成の報告を話してもらいました。午後からは「労働組合の原点を考える」と「自立支援法は廃止を」の 2 つの分科会に分れて討論を行ないました。

「つどい」に参加したひとは、「法人の不正行為を告発して『利用者によりケアを提供しよう』と労働組合をつくってがんばっている勇気に励まされた」「記念講演を聞いて、これまでがんばってきた甲斐があった」などの感想を寄せてくれました。